

会報

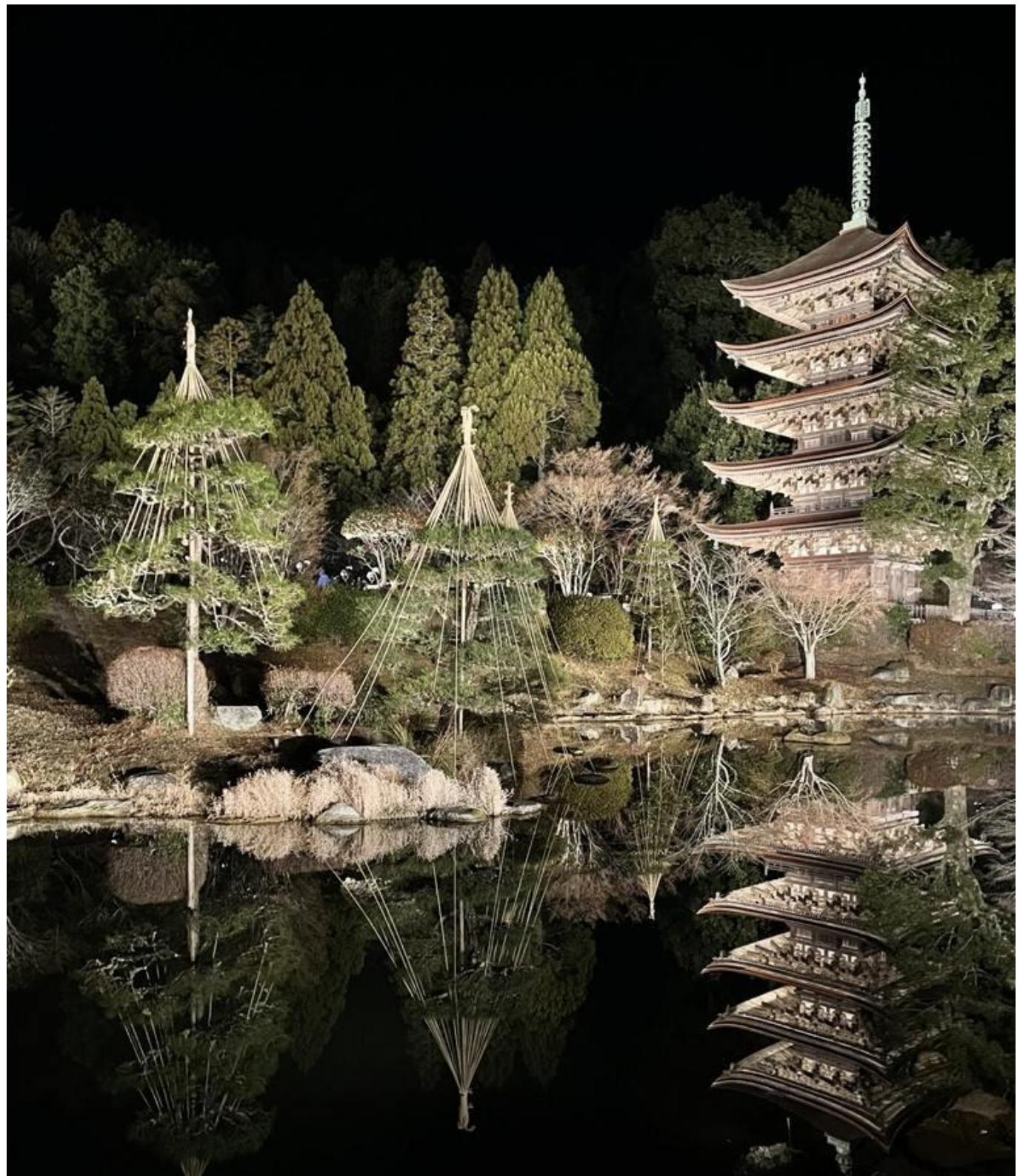
山口七夕会

令和8年（2026年）1月

第59号

題字／書・原野和夫 氏

発行：会報編集委員会／事務局



2025年12月、ライトアップされた国宝瑠璃光寺五重塔

< 目 次 >

秋草会長挨拶	3
伊藤山口市長年頭挨拶	4
入江山口市議会議長年頭挨拶	5
【特別寄稿】山口市が選ばれた理由やセールスポイント、苦労話	6
日本国際保健医療学会学術大会でのブース出展	8
外国人と一緒に初めて山口へ旅行した話	10
夢の実現 毛利氏特別展開催	12
秋の紅葉ウォーキング 2025	14
秋の交流会～山口の味てんこもり～	16
山口七夕会親睦ゴルフコンペ第12回八木重二郎杯	17
新入会員及び法人会員の皆さん	18
イベント等のお知らせ	19
<山口市役所より>ふるさとやまぐち寄付金のお願い	20
投稿募集／役員募集／公開名簿掲載承諾のお願い	21
メールアドレス登録のお願い／事務局からのご案内／編集後記	22

※会報は山口七夕会のHPにもアップします。HPでカラー版をお楽しみください。

会長挨拶

新年のご挨拶



2026年を迎えました。新年おめでとうございます。今年も宜しくお願ひ致します。

残念なことに世界を見渡すと至る所で争いが起こっており、なかなか穏やかな状態という訳には行きません。世界がもう少し「平和」を大切にしてほしいと思います。

一方で、山口七夕会は「地の利は人の和に如かず」を実践してきたと思います。山口七夕会東京本部に与えられた場所は故郷山口市ではなく首都圏ですので、地の利を得ていません。しかし「人の和」で、こんなに強い歩みが出来るようになりました。以前はどうしたら活発な活動ができるのか、何が障害なのかと悩んだ時期もありましたが、答えは意外に身近な所「人の和」にあった様に思います。

昨年からまず無理をせず、自分の得意分野で中心になってイベントを企画する雰囲気が醸成されました。七夕会のお手伝いをしている役員の方々もまだまだ現役。仕事を持

った方々です。仕事の合間の時間を活用して七夕会を支えて下さっています。だからこそ貴重な存在なのです。

一方で山口市役所の方々も事務局として、いろいろな形で七夕会を支えて下さっています。新入会員を含む名簿の管理はもちろん、首都圏で開催された山口市関連のイベント後にお手伝をした七夕会役員メンバーとの懇親会などを通じて両者の協力関係が深まっています。三軒茶屋での山口県の物産販売会の終了後には、市役所の方々と七夕会役員メンバーとの交流＝懇親会がこんなにも親睦を深めるのかと実感した次第です。

また、七夕会幹事で帝京大学教授山本先生のご尽力によって帝京大学板橋キャンパスで開催された「日本国際保険医療学会学術大会」で山口市のブースが山口市の協力もあり実現しました。学会の「大会長」という立場で山本先生が基調講演で山口市を紹介して下さり、それを通じて例えば「ちょうちん祭り」の様な地域の文化活動が「健康」「防災」「平和」というテーマにどう貢献できるか考える機会を作って下さいました。今までになかった切り口での見方が出来た一例となりました。

三人寄れば文殊の知恵ではありませんが、副会長が中心となり会則など「規程」を七夕会の活動実態に合った形に改正する作業をして頂いています。皆さんの知恵を集める努力を力にして進めている訳です。まず規則を作り、それに従って七夕会を運営するのではなく、何をするかという事がはつきり分かった上で、それに合う会則や諸規定を整備するのが本筋です。やっとその段階に達したと言えるとも思います。

とはいえる、まだまだ色々な考え方もあると思いますので、会員の皆さんからのご意見を頂戴したいと思います。宜しくお願ひ致します。

令和8年（2026年）1月
山口七夕会 会長 秋草史幸

【年頭挨拶】



新年明けましておめでとうございます。令和8年の新春を迎え、秋草会長様をはじめ、会員の皆様方に謹んで新年のお喜びを申し上げます。また、平素から市政各般にわたり格別の御理解と御協力を賜っておりますことに、心から感謝とお礼を申し上げます。

私は、昨年10月の市長選挙におきまして、皆様からの力強い御支援、御支持をいただき、2期目となる市政をお預かりさせていただきました。改めて、その責任の重さに身の引き締まる思いをいたしているところでございます。

皆様から寄せられました大きな期待をしっかりと受け止め、「市民を大切に。地域を大切に。」という変わらぬ思いのもと、市民の皆様の安心の暮らしを守り、地域のコミュニティや人ととのつながりを大切にいたしながら、未来を見据えたまちづくりを進め、「安心。つながり。明るい未来。」のある山口市を築いてまいります。

本年は、「前進と挑戦」を象徴する「午（うま）」の年でございます。このような年を迎えるにあたり、山口市では「都市全体の元気度を上げる」「選ばれるまちへ」「まちをスマートに」の3つの視点のもと、合併モードのまちづくりから新たなまちづくりモードへの移行を図ることで、新たなまちづくりを進めてまいります。

山口駅周辺エリアにおいては、昨年5月にオープンした新本庁舎棟に続き、パークロードに接する庁舎前広場や市民交流棟の整備を進めてまいります。こうした基盤整備と並行するかたちで、今後は、パークロード周辺に集積する教育文化機能の連携強化などの取組を通じて、中心市街地一帯の回遊性を高めてまいりたいと考えております。

また、湯田温泉エリアにおきましては、「湯田温泉こんこんパーク」をはじめとした観光地域づくりに資する基盤整備を進めてきたことで、新たなにぎわいが生まれ、民間投資の誘発が始まっているところです。今後も、道路の美装化や修景整備を通じまして、おもてなし機能の向上を図ってまいりたいと思います。

そして、旧小郡駅である新山口駅周辺エリアでは、広域的な道路ネットワークである国道2号及び国道9号や、広域交通結節点であるJR駅との近接性から、交通利便性の高さを有する小郡や南部地域の地域特性を生かし、エリア全体として人口を1万人増加させていくようなプロジェクトを検討しております。

このような取組を進めてまいりますことで、定住実現につながる県都づくりをさらに進め、加えて、人口減少局面においても、交流人口や観光消費の拡大による地域経済の底上げをしつつ、豊かな地域づくりにつなげていく「住んでよし、訪れてよしの観光地域づくり」を図りながら、「観光コンベンションシティ山口」という本市の特長を伸ばしてまいります。さらに、社会全体で進む人口減少と高齢化に伴い、公的部門も民間部門も担い手が限られていく中にあって、デジタル技術等も活用いたしながら「ずっと元気な山口」の実現を目指し、スマートシティの取組をさらに進めてまいります。

こうした考え方のもとで新たなまちづくりをスタートさせてまいります本年を、「新たな挑戦 元気山口」の年と位置付け、「ずっと元気な山口」の実現に向けたまちづくりを進めてまいります。そして、一昨年の米ニューヨーク・タイムズ紙への掲載、昨年の「地球の歩き方 山口市」の発刊、そして、本年秋に開幕する山口DCという流れを途切れさせることなく、歴史文化をはじめとした本市固有の魅力をさらに高め、発信いたすなど、山口七夕会の皆さまのお力も拝借いたしながら、しっかりと盛り上げていきたいと考えております。

結びとなりますが、ふるさと山口の発展を願い、御尽力いただいております会員の皆様方に敬意を表し、改めて感謝を申し上げます。どうぞ会員の皆様におかれましては、引き続き本市の力強い応援団として、各方面においてお力添えをいただきますとともに、本市の魅力発信への御助力を賜りますようお願い申し上げます。

山口七夕会のさらなる御発展と、会員の皆様の御健勝と御多幸、そして益々の御活躍を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

山口市長 伊藤和貴

【年頭挨拶】



令和8年の年頭にあたり、市議会を代表いたしまして、謹んで新春の御挨拶を申し上げます。

秋草会長様をはじめ、山口七夕会の会員の皆様におかれましては、長年にわたり、幅広く多彩で豊かな人脈を生かし、ふるさと山口の発展を願う深い郷土愛のもと、地域社会の活性化や文化の継承、さらには市民交流の促進など、多方面にわたり御尽力を賜っております。その不断の御努力に対し、心より敬意を表しますとともに、日頃から市政に寄せられる温かい御支援と御協力に対し、改めて深く感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、本市にとって大きな節目と飛躍の機会が重なった年でございました。

まず、5月には、新本庁舎が供用開始となり、市議会も新たな議場での定例会を緊張感とともに迎えました。これまでの議場にはなかった車椅子スペースや要約筆記用のスペースを設けるなど、誰もがより傍聴しやすい環境を整えたところです。また、最新の設備を備えた新本庁舎は、市民サービスの向上はもとより、災害への対応力の強化や、行政の効率化にも寄与するものであり、本市の未来を支える重要な基盤として大きな期待が寄せられております。

9月には、アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市との友好都市提携が締結されました。これにより、国際交流の新たな扉が開かれ、文化・教育・観光など多方面での交流が一層深まることが期待されております。特に、次世代を担う子どもたちにとって、世界をより身近に感じ、異文化に触れる貴重な機会は、本市の将来にとっても大きな財産となるものと確信しているところです。

そして10月には、新市誕生20周年という大きな節目を迎えました。記念事業の一環として発刊された『地球の歩き方 山口市』では、本市の歴史や文化、自然、食といった多彩な魅力が全国に向けて発信され、多くの方々に山口市の奥深い魅力を知っていただく契機となりました。加えて、国宝・瑠璃光寺五重塔が令和の大改修を終え、往時の優美さをさらに際立たせた姿でよみがえりました。夜間ライトアップの美しさも相まって、市内外からの注目が高まり、本市の観光振興にとって大きな追い風となっております。

このように、昨年は本市の魅力を再確認し、内外に発信する機会に恵まれた一年でございました。一方で、我が国は依然として人口減少が続き、デジタル化の急速な進展や価値観の多様化など、社会環境は大きく変化しております。本市におきましても、都市部と農山村部がともに活力を維持し、持続可能な地域社会を築いていくためには、こうした変化に柔軟かつ迅速に対応することが求められております。

そのためには、これまで整備してきた社会基盤を土台としながら、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを進めていくことが、大変重要であると考えております。市議会をいたしましても、市民の皆様のお声に真摯に耳を傾け、地域の特性を生かした地域づくりや、子どもたちの未来を見据えた政策提言に努めてまいります。そして、新しい議場を拠点に、さらに開かれた議会を目指し、より透明性の高い議会運営に努めてまいりますので、山口七夕会会員の皆様におかれましては、引き続き、本年も変わらぬ御指導と御鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

本年は午（うま）年でございます。古来より馬は、力強く前へ進む生命力の象徴とされ、「馬九行久（うまくいく）」という言葉にも表されるように、物事が順調に進む縁起の良い干支として親しまれてまいりました。本年が、天を駆ける駿馬の如き勢いをもって、皆様お一人お一人の歩みがさらなる飛躍へとつながり、実り多き輝かしい一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

結びに、山口七夕会の益々の御発展と、会員の皆様の御健勝と御多幸を祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。

山口市議会議長 入江幸江

【特別寄稿】

山口市が選ばれた理由やセールスポイント、苦労話

株式会社地球の歩き方『山口市』版プロデューサー 日隈理絵

昨年10月に『地球の歩き方 山口市』版を発行してから、早いもので約3ヵ月が経ちました。どれほど自信をもって世に送り出す一冊であっても、発売前にはいつも「本当に多くの方に届くだろうか」という不安がよぎります。しかし『山口市』版は、そんな心配をよそに発売直後に重版出来！地元・山口市での反響はもちろん、多くのメディアにも取り上げていただき、今なお全国へと広がり続けています。ご尽力をいただいた七夕会のみなさまをはじめ、手に取ってくださった多くの山口市のみなさまに、心より御礼申し上げます。

「地球の歩き方」は1979年、海外旅行のガイドブックとして誕生しました。以来、日本人旅行者の歴史とともに歩み続け、創刊46年になりました。2020年には初の国内版『東京』を発行しましたが、これはコロナ禍による苦肉の策ではありませんでした。2020年に開催される東京五輪と「地球の歩き方」40周年に合わせて考えた企画だったのです。五輪延期というまさかの逆風のなかでの発行となりましたが、結果は予想を超える大ヒット。遠くへ行けない時期だからこそ、「地元をもっと知りたい」「身近な場所を楽しみたい」という思いに応える一冊となつたのです。この経験から「地元のことは意外と知らない。でも本当は知りたい」という気持ちが多くの人の中にあると確信し、国内旅行需要と地元再発見のニーズを掘り起こすため国内版のラインアップを増やすことといたしました。



当社が山口県でも下関や萩などではなく、山口市単体で一冊を作りたいと考えたのにはいくつかの理由があります。これまでの国内版制作を通して、エリアを絞れば絞るほど、地元の方々の熱量が高まることが分かっていました。さらに『ニューヨーク・タイムズ』の「2024年に行くべき52ヵ所」に山口市が選ばれたことも、大きなあと押しとなりました。正直に言えば、首都圏育ちの私にとって、山口市は新幹線で通り過ぎるだけの存在でした（これを読んでいる市民のみなさま、申し訳ありません）。しかし、その「知らなさ」こそが、編集者としての好奇心に火をつけたのです。

実際に山口市について調べはじめると、企画の種は次々と見つかりました。山口県最大の広さを誇る市内には、中心地にある湯田温泉をはじめ東大寺再建にも使われた徳地の森、カブトガニの生息地である山口湾など、想像を超える魅力が広がっていました。しかし、既存の出版物では『山口県』はあるけれど、山口市の情報は瑠璃光寺五重塔と湯田温泉が数ページ掲載されているのみ。だからこそ、「地球の歩き方」でまだ知られていない魅力を丁寧に掘り起こし、知られざる山口市の魅力を発信することで、シビックプライドの醸成と旅行需要を喚起したいと強く思いました。

山口市がもつさまざまな魅力のなかでも、大内文化と関連する施設の多さ、明治維新の策源地であるという点は、書籍全体に散りばめることができる重要な要素でした。歴史と文化を深く伝えることは、「地球の歩き方」が創刊以来大切にしてきた編集方針でもあります。旅行前に旅先を事前予習するために、旅先で出会ったあらゆる出来事の歴史的背景を知るために、そして旅から帰ってか

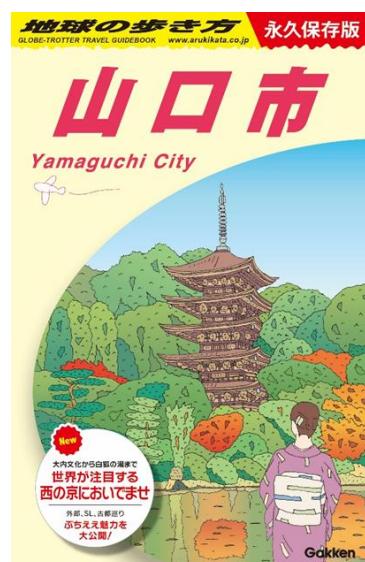
ら訪れた土地の理解を深めるために……読者が多くのページで歴史や文化に触れるができるよう制作をしています。書籍では山口市の歴史を旧石器時代から、2025年まで何と合計8ページにわたって年表で紹介しています。歴史事典のように使っていただくこともできると思います。

伝統的なお祭りやイベントが多いことも山口市の楽しみのひとつだと思い特集にしました。私自身も25年8月には取材の合間に「山口七夕ちょうちんまつり」に参加させていただき、実際にちょうちんに火を灯した体験は今も心に残っています。またお祭りで七夕会のみなさまと言葉を交わし、写真を撮らせていただいたことも、かけがえのない思い出です。

こういった地元の方々との出会いも編集者冥利に尽きるのですが、山口市の取材では本当にみなさま協力的でよくしていただきました。『地球の歩き方 山口市』は、地元のみなさまとともに作り上げた一冊といつても過言ではありません。制作発表と同時に実施したアンケートには、1ヵ月程度の期間に約500名の方が参加してくださいました。「おすすめスポット」や「推しグルメ」などに加え、集計をしていてとても興味深かったのが書籍内でも4ページで特集をした「山口市あるある」

(86~89ページに掲載しているのでぜひご覧ください!)。餅まきへの異常な愛着や、今でも新山口は小郷と言ってしまうなど、新たな山口市の側面が垣間見られて書籍作りに大いに生かせたと思います。「山口市には何もない」と謙遜しながらも、アンケートにはしっかりと愛情あふれる言葉が並ぶ。そのギャップに触れ、山口市は実はとても“地元愛の深い場所”なのだと感じました。国内版を発行する際には県民数や市民数をひとつの目安にして発行部数を考えるのですが、山口市は市民数(約19万人)から目標を考えるのはやめようと決めました。市歌を掲載したり、大内の殿様の振り付けを紹介するなど細部までこだわったのも、山口市のみなさんにクスっと笑って「うれしい」と感じていただきたかったからです。

書籍完成まで1年以上の時間を掛けて制作をした1冊が、山口市に暮らすみなさまにとって「知っているはずのわが町」を、もう一度好きになり深く知るきっかけになれば幸いです。山口市を紹介するとき、そっと本棚から取り出してもらえる存在であれば、なおうれしいです。そして今後も引き続き書籍の販促を行なながら、山口市の魅力を全国に発信していき旅行者誘致に少しでも貢献できれば、ガイドブック編集者として、これ以上の喜びはありません。



書名：地球の歩き方 J27 山口市

著作：地球の歩き方編集室

定価：2,200円（税込）

<https://www.arukikata.co.jp/guidebook/311483/>



日本国際保健医療学会学術大会でのブース出展

本部・本部長 藤井 謙志（会員No.611）

山口七夕会は、令和7年11月1日(土)、2日(日)に帝京大学板橋キャンパスで開催された「第40回日本国際保健医療学会学術大会」にて初めて山口市のブース出展を行いました。

【大会概要】

- 会期：2025年11月1日（土）～11月2日（日）
- 会場：帝京大学 板橋キャンパス
- 大会長：帝京大学薬学部教授 山本秀樹（山口七夕会会員）
- テーマ：「いたばしから世界へ—地域社会に根差したSDGs」



本大会の大会長が山口七夕会の本部幹事である山本秀樹さんであり、出展者の選択権限を持たれていたことから山口七夕会が出展できる機会を得たことと500人を越える来場者に山口市をアピールでき、学術的な会場に出展することによるステータス向上の機会は有用であるとの判断から今回の出展に至りました。

1. 開会式と基調講演

初日の午前、帝京大学板橋キャンパスの臨床大講堂で開会式が行われました。大会長の山本秀樹教授から「国際保健医療学会との40年-いたばしから世界へ」が語られ、冒頭で自身の出身地である山口市の歴史・文化などについて詳しくお話しになり、地域文化を守り育てる活動と国際保健の理念が重なり合う部分を強く感じました。

2. 特別シンポジウムと特別講演

市民公開講座「プラネタリーヘルスの視点で捉える気候変動と災害: コミュニティの役割と挑戦」として、帝京大学理事長・学長の沖永佳史氏、日本学術会議会長光石衛氏、日本国際保健医療学会理事長小林潤氏など有識者からの挨拶を皮切りに特別シンポジウムが行われ、特別講演には日本医師会会长松本吉郎氏が登壇するなど、会場は熱気に包まれました。国連職員によるパレスチナの現状報告では、国際保健と平和の関係を考える貴重な機会となりました。

3. 所感

今回の大会は、学術と市民活動が交差する場でした。山口七夕会としては、地域文化活動が「健康」「防災」「平和」といったテーマにどう貢献できるかを考える契機となりました。七夕ちょうちん祭りのような地域行事は、単なる娯楽ではなく「地域の絆を強める健康資源」であり、国際保健の理念とも響き合うものだと感じました。

4. 山口市ブース出展

学生食堂ホールを使ったポスターセッション会場へ山口市ブースを出展、ディスプレイの構想作成から配布物の準備は関幹事長と山口市役所が協力して行い、大会当日も山口市役所谷口政策管理

室長補佐も山口市から駆け付け、山口七夕会の役員とともに大会参加者 540 名を対象に山口市の宣伝を行いました。山口へ興味を持って下さる方も多く、用意した大内人形のシールはすぐになくなってしまいました。

大会期間中交代でブース展示した方々：関周さん、西村弘文さん、岡本達也さん、田村廣修さん、神原昭彦さん、山本秀樹さん、影山絵里子さん、谷口敦彦さん、藤井謙志

5.懇親会（一次会・二次会）

ポスターセッション後、隣接するパーティーアー会場で懇親会が国際色豊かに開催され、山本秀樹大会長の奥様である田宮菜奈子つくば大学教授の歌と山口七夕会の関幹事長のアコーデオンが披露され、会場全体から拍手喝采が沸き起きました。会場では、林芳正総務大臣の妹さんである林玲子さんや山口県立大学看護学科学生で山口赤十字病院研修中の若林陽香さんもいらっしゃっており、意外にも山口の方々とお会いする事が出来たのは大変うれしい事でありました。楽しい懇親会はあっという間に時間が過ぎ、二次会は徒歩 5 分とかからない“ミュージカンテ・アマネ”で大学生も一緒に幅広い世代で懇親を深める事ができました。新規ご入会頂いた方もあり本当に有意義な一日がありました。今後も山口七夕会として、新たな挑戦を続けて参りたいと思っております。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

（山口七夕会 藤井謙志）

【ミュージカンテ・アマネ HP】

https://8011.jp/amane_index2.html



山口市ブース出展の様子
(左から藤井副会長・本部長、影山
幹事、山本幹事、山口市谷口室長補佐)



田宮教授（左）、関幹事長（右）



パーティーアー会場での懇親会の様子



ミュージカンテ・アマネでの二次会

外国人と一緒に初めて山口へ旅行した話

本部幹事 影山 絵里子（会員 No. 793）

今回は、2025年8月末に友人2人を連れて山口旅行に行った時のことと書こうと思います。

2人は、なんとSNSの英語コミュニケーションを通じて知り合った日本人の女性、インドネシアの男性で年代もまったく違う3人です。

インドネシアの友人はJoe1といい、日本でいう国税庁にあたるところで働いており、インドネシア政府から選抜されて慶應義塾大学で2年間ビジネスを学ぶために来ていました。2025年9月にインドネシアへ戻ることになっていたのですが、彼のInstagramで日本のいたるところに旅行していることを見ていきました。ただ、山口には来ていないなと思い、ぜひ山口にも来てほしいと思い、彼を誘ってみたのです。

彼は、留学で来ている2年間で47都道府県を回ると決めていたようで山口には行く予定のようでしたが、山口の魅力を十分に味わってもらうためには絶対に私が案内するほうが思い出に残るはずだと確信していました。

しかし、最初予算を伝えて誘った時には、予算が合わないから別でと断ってきました。でもここで私はあきらめません笑！

移動の車の運転はもう一人の日本人の方と2人でするし、レンタカーレンタ一代は私たちで負担することをお伝えしました。宿泊は、Joe1は1泊目は山口市内のカプセルホテル、2泊目は私たちが合わせて俵山温泉のゲストハウスにしました。

そうして、8月30日～9月1日に山口旅行が決行されました。
日程表はこちらで、山口県をぐるっと2泊3日で回る旅です。

8/30	岩国空港着→錦帯橋→むさし(日本一種類が多いソフトクリーム屋) →岩国城 →いろいろ山賊(ランチ)→柳井の金魚ちょうちんの白壁の街並み→瑠璃光寺五重塔→湯田温泉で足湯につかる→磯くら(夕食) 山口市泊
8/31	名田島食堂(朝食)→別府弁天池→秋芳洞→萩へ移動し、どんどん(昼食)→→松陰神社→萩城下町→長門へ移動 俵山温泉泊
9/1	道の駅センザキッチン(朝食)→元の隅神社→角島大橋→下関の中心地へ移動し、関門海峡人道→カモンワーフで休憩→赤間神宮→解散し帰路へ

山口は広い！そして観光スポット間の移動が大変というのは毎回実感するのですが、山口で行ってほしい観光スポットにはだいたい回れたかなと思っています。

Joe1は、旅行に行く前に元の隅神社には行きたい！とリクエストしてきたのですが、旅行後に山口のどこが一番よかったです？と聞いたら、『秋芳洞！』と言っていました。

自然が作り出したあの芸術作品に感動したのと、猛暑の時期で年中17度の鍾乳洞の中は快適だったようです。

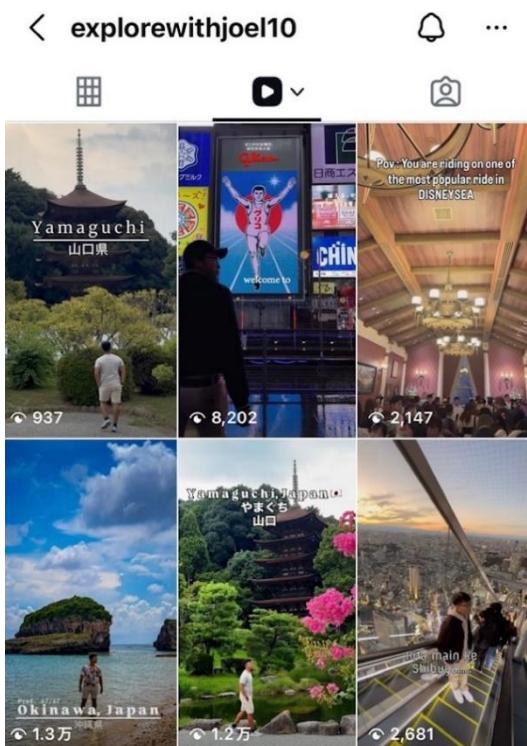


Joel はイスラム教のため、アルコールや豚肉が NG ではあったものの、山口では困ることはありませんでした。

もちろん、外郎も食べてもらいましたが、すごく美味しいと言っていました。インドネシアにもモチモチしたスイーツがあるようで、インドネシア人にとってあの食感は好きなようです。

もっとゆっくり山口を回ってあげたほうがよかったです、私の時間がとれる最大限での案内となりました。しかし、知らなかつた山口のことを知つてもらい、発信してくれたこと。こういった地道な普及活動をこれからもやっていくことで、どこかで大きく拡散されるような気がしています。

Joel のインスタグラムの QR コードも載せておくので、よければ見てみて下さい！



山口の動画を 2 本投稿してくれていて、

Yamaguchi, Japan
やまぐち
山口

の動画は、閲覧数が 1.2 万になっています。

夢の実現 毛利氏特別展開催

藤井 尊弘（会員 No. 780）

過去の会報の投稿を振り返ってみました。

2020年9月「毛利氏の縁」

2021年11月「毛利氏ゆかりの地で描く夢」

私は、2020年3月に山口七夕会に入会しました。JR 町田駅そばのファミリーレストランで当時七夕会本部長の梶山俊哉さんとお会いし、厚木の毛利氏の歴史が埋もれておりこれを何とかしたい旨をお伝えしたのが縁の始まりです。その後元防府市議会議長を紹介いただき、その縁で毛利報公会の毛利元敦会長にお話が伝わり、ご了承を頂いて立ち上げたのが「厚木毛利氏プロジェクト」です。

それから5年、名刺を作成し現在まで市内外約400名の方にご挨拶とご協力のお願いをし、市内でも学芸員とご一緒に「毛利氏発祥の地 厚木」の啓蒙をして参りました。

さてここで話が変わりますが、亀山公園を通して山口市と毛利氏について少し触れてみたいと思います。

山口市の亀山公園は、かつて「長山」と呼ばれていました。古代から中世にかけて、この地には大内氏ゆかりの別邸があったと考えられています。戦国時代に、毛利輝元の命で従弟の毛利秀元が城を築こうとしましたが、関ヶ原の戦いで毛利氏が敗北したため、城は未完成のまま終わりました。もし城が完成していれば、山口の街の姿は大きく変わっていたかもしれません。明治時代に入り、この場所は公園として整備され、現在の亀山公園となります。

実は、明治33年（1900年）には、毛利敬親だけでなく、本藩主の毛利元徳や、長府藩主の毛利元周、徳山藩主の毛利元蕃、清末藩主の毛利元純、岩国藩主の吉川経幹を含む計6体の銅像が山頂に建てられていました。これらの銅像は、明治維新に貢献した人々を称える目的で、長州出身の山田顕義や伊藤博文、井上馨などの働きかけによって建立されました。しかしながら太平洋戦争中に兵器の材料として供出されすべての銅像は撤去されてしまいます。現在山頂広場にある毛利敬親像は、昭和55年（1980年）に山口市制施行50周年を記念して再建されたものです。山口市とも縁の深い毛利氏ですが、続きは次回にするとして話を厚木に戻します。



亀山公園の毛利敬親公の銅像

2022年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」が放映された際に、初めてあつぎ郷土博物館学芸員と厚木歴史講座を開催し3回150名の市民が参加。2023年3月は、山口七夕会春の集いで約50名が参加。2024年の厚木歴史講座では2回100名の市民が参加しました。

その後厚木市では議会でも取り上げられ（現市議会議長）2025年3月無事予算が通過し、2026年1月の毛利氏特別展開催が決定致しました。この12月の議会でも一般質問の際に市議会議員から、展示への参加が会場の皆様に呼びかけられました。

年明け 1 月 24 日より厚木市制 70 周年記念事業として毛利氏特別展『寿・毛利家と共に』が、あつぎ郷土博物館で開催されます。毛利報公会が運営する毛利博物館と山口県立博物館のご協力を頂き、約 25 点の毛利家の至宝が展示されます。関東にお目見えするのは 2012 年にサントリー美術館・東京ミッドタウン 5 周年記念の展示以来で、実に 14 年ぶりとなります。

初日には厚木市文化会館にて著名人を集めた「厚木と毛利氏の関係や歴史を学ぶ」歴史フォーラムも開催されます。展示期間内で開催される講演会では、山口県より毛利博物館館長柴原直樹様と徳山毛利家第 14 代当主毛利就慶様をお迎え致します。厚木市民のみならず市内外のたくさんの毛利氏ファン、歴史ファンの方に厚木にお越しいただきたく思っております。

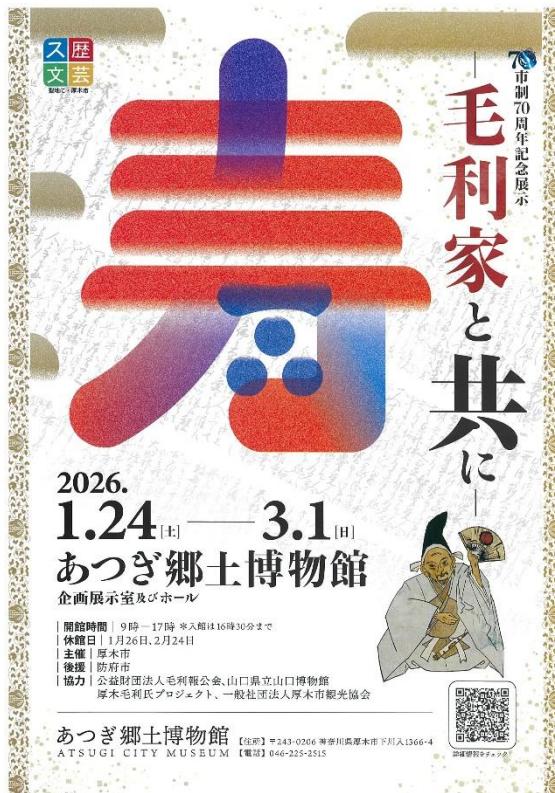


歴史フォーラムポスター

私自身も当初厚木の歴史には乏しく約 4 か月市立図書館に通い、厚木市史をはじめ郷土史を片っ端から読み始めたことは今では懐かしい思い出です。図書館には地域ごとに大切な歴史があり伝説もあり、すでに図書の中にしか見つけることのできない出来事も埋もれています。

最後にこれまで多大なご支援、ご協力を頂きました山口七夕会の皆様に厚く御礼申し上げます。

毛利氏特別展が終わる 3 月には、市民が自身が生まれ育った厚木をますます大切に思うことを夢見てペンを置きたいと思います。



毛利氏特別展ポスター

秋の紅葉ウォーキング 2025

本部・副本部長 岡本達也（会員No.670）

●歌舞伎座

銀座晴海通りを歩いて行くと、左手に歌舞伎座を見ながら築地に向かいました。



【写真－2 歌舞伎座】

●築地場外市場

築地市場は東京都中央区築地5～6丁目に1935年から2018年の83年間にわたり使用されてきた公設の卸売市場です。魚市場は豊洲に移転しましたが、約460店舗の店舗が並ぶ築地の場外市場は依然として活気に溢れたエリアです。



【写真－3 築地場外市場】

総合案内所「ふらっと築地」にふらっと入ったところ、案内の女性が私の山口市の赤の法被に気付き、「幼稚園が山口サビエル天使幼稚園だったの！」と声を掛けてくれました。本当に世の中は狭いと思いました。

●浜離宮恩賜公園

海水を引き入れた潮入の池と2つの鴨場を伝え、江戸時代には江戸城の出城としての機能を果たしていた徳川將軍家の庭園です。歴代の將軍たちは「御茶屋」

2025年の東京紅葉ウォーキングは11月16日(日)秋晴れの中で築地場外市場、浜離宮恩賜公園、旧芝離宮恩賜公園を巡り、17名の参加で行いました。当日の午後に秋の交流会を浜松町の別邸福の花で行うことが決まっておりましたので、それでは午前中に紅葉ウォーキングをしようとなり、JR有楽町駅をスタートに、別邸福の花浜松町店をゴールにルートを設定しました。

朝9時30分にJR有楽町駅中央改札口に集まり、銀座の晴海通りを清々しくウォーキングしました。



【図－1 紅葉ウォーキング 2025 コース】



【写真－1JR 有楽町駅中央改札口(スタート)】

今回の参加者17名には2名のお子様(4歳、6歳)の参加があり、これまでにない平均年齢でした。

を鷹狩の際の休憩所としても利用していました。潮入の池にある「中島の御茶屋」を通り、中島橋の紅葉を楽しみました。



【写真-4 浜離宮恩賜公園】



【写真-7 中島橋】

●旧芝離宮恩賜公園

小石川後楽園と共に東京に残る江戸初期の大名庭園の一つにも寄りました。



【写真-5 潮入の池】



【写真-6 中島の御茶屋】

【写真-8 旧芝離宮恩賜公園】

●別邸福の花浜松町店

参加者全員が予定の2時間30分で完歩いたしました。そのまま、「別邸福の花浜松町店」で秋の交流会に突入しました。満足満足。



【写真-9 別邸福の花浜松町店(ゴール)】

秋の交流会～山口の味てんこもり～（レポート）

本部・本部長代行 西村 弘文（会員 No. 464）

令和7年11月16日（日）、秋の交流会を開催しました。場所は別邸福の花浜松町店です。今回は交流会に加えて、山口七夕会の会員が福の花さんで使える割引カードのお披露目をしていきます。

本年1月から、本部の幹事会では山口七夕会の活性化を中心とした会の運営の方向性について検討を開始し、①SNSによる活動状況の発信、②同窓会等での広報と勧誘、③山口市の公認組織であることのアピール、④イベント企画の募集と協賛、⑤法人会員に東京での総会や交流会でPRする場を設ける、等の方策を進めているところですが、検討の過程においては実業家の方の視点を参考にしようと、実業家である会員の方との会議を行いました。そこで、福の花さんの社長である中嶋さんから提案を頂き、本企画が実現しました。

中嶋さんは、山口県と首都圏に和風居酒屋「福の花」「ふくの鳥」等の38店舗を展開するベアーズコーポレーションの社長であり、都内の福の花4店舗（浜松町店、市ヶ谷九段店、茅場町店、溜池山王店）を10%引きで利用できる山口七夕会会員カードを提供していただきました（ランチタイム使用不可）。カードは会報1月号に同封しております。会員だけでなく、同行者にも適応されますし、浜松町店は駅のすぐ近くにありますので、来東の折にも使いやすいと思います。

交流会は、秋の紅葉ウォーキング参加の17名の到着を待って、12時を少し回って開始されました。参加者は29名で、中嶋さんも会員として参加されました。

進行の担当は関幹事長です。都合により秋草会長が参加できなかったため、藤井本部長が開会のあいさつを行いました。引き続いて中嶋さんに会員カード企画についての説明と本日の料理についての説明をしていただきました。いつもであれば乾杯に移るところですが、8月に亡くなった元本部副本部長、本部顧問の武内衛子さんを偲んで献杯を行いました。

料理は福の花さんのかだわりである「山口県の食材」で作られており、また、山口県の銘酒が提供され、大人も満足、2名のお子さんも満足の様子でした。食事の間では、山口七夕会が山口市の宣伝ブースを出展して会の盛り上げに多少ながら貢献した日本国際保健医療学会学術大会の大会長を務めた山本幹事（帝京大学薬学部教授）から、学術大会成功的報告と山口七夕会への感謝が述べられました。また、アトラクションとして、影山副幹事長による「あるある&どこどこ山口市クイズ」が行われました。

美味しい料理とアトラクション、そして会員同士の会話を楽しみつつ、最後に山口七夕会顧問の石田さんの中締めで交流会は終了しました。



藤井本部長挨拶



先付け



アトラクション（山口クイズ）

山口七夕会 親睦ゴルフコンペ第12回八木重二郎杯

本部・監査役 大枝 幹夫 (会員No.416)

令和7年11月11日 (火)、オリムピック ナショナル ゴルフクラブ WESTコース (埼玉県) にて山口七夕会八木重二郎杯ゴルフコンペが開催され、同伴者・ハンデキャップに恵まれ幸運にも優勝できましたことをご報告申し上げます。また同伴者の方には改めてお礼申し上げます。

さて当日は、八木元会長の組に続き第2組でプレーをスター
トしました。プレー
中は前の組の八木さ
んのプレーに同伴者
共々感心し、話しな
がら楽しく1日を過



ごせました。

さて最後に会員の皆様に一つお願いを致しまして報告とさせて頂きます。
「今後是非親睦を兼ね皆様の参加をお願い致します。男女は問いません。とても気楽な会
です。」



優勝：筆者



準優勝：利重さん

< 新入会員(個人会員番号・氏名)及び法人会員の皆さん >

《令和7年9月号掲載以降の新入会員》 ※氏名、住所は公開会員名簿への掲載承諾者のみ

会員番号	氏名	住所
907	今村 主税	山口県山口市
908	江端 希之	山口県山口市
909	榎原 敏行	埼玉県所沢市
910	繁澤 達夫	山口県山口市

法人会員
山口日産自動車株式会社
旭水産有限会社
株式会社 常盤
株式会社 技工団
有限会社 劇団角笛
マルシフードサービス株式会社
社会福祉法人青藍会
株式会社セブンシステム
株式会社ベルミューズ
一般社団法人日本自動車連盟山口支部 (JAF 山口支部)
BRAIN SIGNAL 株式会社
弁護士法人 末永法律事務所
株式会社アドギルド・ジャパン
公益社団法人 山口被害者支援センター
株式会社 小郡衛生公社
株式会社 エフエム山口東京支社
株式会社 竹内酒造場
C & C 山口
湯田温泉旅館協同組合
公立学校共済組合山口宿泊所 セントコア山口
株式会社 クリエイティブ・トゥエンティワン
株式会社 エボリューション

令和8年1月20日現在の会員数：個人会員 381 法人会員 22

イベント等のお知らせ

＜冬の徳佐を楽しむ会（ふるさと山口本部）＞

- 日時：令和8年1月31日（土）
- 場所：阿東地域交流センター
- 講師：中村祐三氏（環境カウンセラー/樹木医）
東 成美氏（医師 山口赤十字病院）
落合せい香氏（お米マイスター）
- 会費：5,000円

＜第9回酣祭（ふるさと山口本部）＞

- 日時：令和8年3月7日（土） 18:00～21:00
- 場所：セントコア山口（山口市湯田温泉3丁目2-7）
- 講師：新谷文子氏（わかむすめ醸造元 新谷酒造（株）杜氏）
- 演題：私の生きる道
- 会費：8,000円（非会員は+500円）、講演会のみは2,000円
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

＜春のお花見ウォーキング（本部）＞

- 日時：令和8年3月28日（土）13:00～16:00
- コース：護国寺駅～東京カテドラル～椿山荘～大隈記念聖堂～早稲田駅
- その他：引き続き、懇親会を計画します。
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

＜第13回八木重二郎杯 会員親睦ゴルフ（本部）＞

- 日時：令和8年5月22日（金）8:15 キャディーマスター室前集合
- 場所：オリムピックナショナルGCウエスト
埼玉県入間郡毛呂山町滝ノ入1724
- 会費：プレー費+飲食費（昼食/表彰式：各自精算）、プレーフィー14,000円程度
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

＜第10回山口七夕会音楽祭「輪-RIN-」（ふるさと山口本部）＞

- 日時：令和8年5月30日（土）
- 場所：山口日産自動車（株）MLG HALL Yamaguchi（山口市大内御堀・旧ポルシェセンター）
- 演目：未定
- 会費：未定

〈山口市役所より〉

ふるさとやまぐち寄附金（ふるさと納税）のお願い

平素から、山口七夕会の皆様におかれましては、本市の文化財保護に多大なる御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

この度、ふるさとやまぐち寄附金（ふるさと納税）を通じて本市の文化財を後世に繋いでいくための取組を開始いたしましたので紹介いたします。

●支援制度の内容

支援の対象は、山口市内の国、県、市の指定文化財で、所有者が国、県または市からの補助金の交付を受けて保存修理事業を実施する場合に、ふるさと納税により御寄附を募り、御支援いただいた寄附額のうち、5割を限度に所有者に対して市が通常の補助に加えて補助金を交付する制度です。

この寄附金に対する返礼品はありません。



今年度（令和8年3月31日まで）は、瑠璃光寺五重塔と常栄寺庭園で実施する事業への御寄附を受け付けています。

※御寄附は下記QRコードからお申込みいただけます。



【常栄寺庭園】

寄附受付はこち



寄附控除について



ふるさと山口の文化財を守るため、御協力いただけますと幸せます。

【瑠璃光寺五重塔】

山口市教育委員会事務局 文化財保護課
文化財保護担当 《TEL》 083-920-4111

《e-mail》 bunkazai@city.yamaguchi.lg.jp

< 会報山口七夕会への投稿を募集します >

1. **大使の一言**(「山口七夕ふるさと大使」の皆さんのお自己紹介記事やメッセージ)
2. **私の一言**(会員の皆さんのお自己紹介記事やメッセージ)

★テーマの一例

- (1) 山口市に関する豆知識
- (2) 山口県外にある山口ゆかりのものや活動
- (3) 今、思っていること

★字数

1,200字程度の文章と写真2枚程度を基準。紙面構成上、フォント、行間等を調整します。

★投稿締切

1月号(12月中旬まで)、6月号(4月末日まで)、9月号(8月中旬まで)、

★投稿提出先

下記に電子データ(Word形式)でお送りください。

会報山口七夕会編集長(西村 弘文) :joe-levin01@outlook.jp

< 本部役員を募集しています >

本部(東京)では、役員を募集しています。

少ない力を集め、無理なく継続的な運営をしていきたいと考えています。我々と一緒に山口の良さをアピールしたい、新しい企画を創造して山口七夕会を盛り上げていきたいという方は、本部長代行の西村までご連絡ください。

連絡先 :joe-levin01@outlook.jp

< 重要 > < 公開会員名簿への掲載承諾のお願い >

会員相互の交流促進や会の活性化に役立てばと、記載事項を限定した「公開会員名簿」を作成・発行しました。作成に当たっては、名簿への記載についての承諾を必要としておりますので、趣旨に賛同していただける方は、記載を承諾する旨を下記まで連絡願います。

「公開名簿で懐かしい名前を見つけて交流が再開した」といったことになればと考えています。

記

メールの場合 : seki@8011.jp (関 周 宛)

郵送の場合 : 〒114-0034 北区上十条 3-3-16 関 周 宛

《重要》< メールアドレス登録のお願い >

山口七夕会はライブや各種イベント、ウェブ抽選会など「新しい企画」にどんどん取り組んでいきます。

新しい企画はメールを主用してご案内していきますので、メールアドレスの登録をお願いします。登録されたメールアドレスの中には送信不能のアドレスがあります。

既に登録されている方も確認のため再度登録をお願いします。

【登録方法】

- QRコードリーダ付きのスマートフォンから登録される方は、右のQRコードを読み込んでください。
- パソコンから登録される方は、本文にご自分のメールアドレスを入力して、「seki@8011.jp」にメールを送信してください。



【事務局からのご案内】

- ◎転居されるご予定のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(ご連絡がないと会報や市報等の資料が届かなくなってしまいます)
- ◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(会員録の整理などの事務手続に必要となります)
- ◎会の運営等に関するご意見があれば下記までお寄せください。

★事務局(山口市企画経営課内) 〒753-8650 山口市亀山町2番 TEL 083-934-2746
kikaku@city.yamaguchi.lg.jp

【編集後記】

新年を迎えお喜び申し上げます。今年もよろしくお願いします。

午年といえば、力強く駆け抜けるイメージですが、株取引の世界では「辰巳天井、午尻下がり」と言うそうです。同じ馬でも見方は色々なんですね。高杉晋作を看取った野村望東尼が、高杉の発した「面白きこともなき世を面白く」の句に「すみなすものは心なりけり」と繋ぎ、高杉は「おもしろいのう」と言って亡くなったという逸話が大好きです。作り話だという人もいますが、私は信じています。「こころなりけり」です。

昨年は医療学会の会場に山口市のPRブースを出展しました。周りは医療系のブースばかりの中で極めて奇異な存在でしたが、多くの質問を受けてPR出来たと思っています。僅かながら種がまけました。本稿には昨年の総会時に講演していただいた地球の歩き方社の日隈さんから寄稿していただきました。山口市版が早速重版出来とのことで、嬉しい限りです。“熱を切らさないこと”を重視しているとの言葉も印象に残っています。

馬とはいかない牛程度の速度であっても、前進する姿勢を保ちたいと思います。

事務連絡ですが、次の6月号は早めの時期に出したいと思っていますので、寄稿される方は4月末日までに寄稿していただけるようお願いします。

機関誌編集長 西村 弘文

